

「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物2800選」、  
『伊予史談』、『浜市の市町村備忘録から松山中央公園化  
する市町村を眺めつ』、『愛媛の土地改良』、『松山市史料集』  
などの市史・町史などを参考にとりまとめた。  
十分にとりまてない部分もあり今後も適宜情報を  
収集して更新を行っていく予定である。

「日本の近代土木遺産～現存する重要な土木構造物2800選」、  
『伊予史談』、『浜市の市町村備忘録から松山中央公園化  
する市町村を眺めつ』、『愛媛の土地改良』、『松山市史料集』  
などの市史・町史などを参考にとりまとめた。  
十分にとりまてない部分もあり今後も適宜情報を  
収集して更新を行っていく予定である。

番号	場所	名称	状況	源泉	取扱状況	備 考
26		西ノ泉	湧出			泉域内であり確認。
27		新泉原	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
29		かきつばた泉	上水道水源			かきつばた浄水場の水源として改修済み。
30		不明	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
31		はげの木の泉	上水道水源			はげの木の水源として改修済み。
32		西地泉	上水道水源			西地水源地として改修済み。
33		泉田泉	上水道水源			泉田水源地として改修済み。
34		不明	井戸	農業用水		不明な所にあり確認、松山市南二区観音門。
35		前田泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
36		乾久泉	上水道水源		1934	乾久水源地として改修済み。
37		北門門前池	湧出	農業用水	改修済	1934 コンクリートで整備済み。ポンプによる汲み上げ式。
38		加賀湯泉	上水道水源			加賀湯水源地として改修済み。
39		御茶湯泉	上水道水源			御茶湯水源地として改修済み。
40		上式湯泉	上水道水源			みづへ湯水源地として改修済み。
41		立石泉（岩と井）	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
42		上泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
43		南谷泉	湧出			湧出は無い。利用されている箇所無し。
44		新永末泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
45		豆腐泉	井戸	農業用水		豆腐水源地として改修済み。
46		不明	噴出			不明な所に確認。
47		不明	噴出			不明な所に確認。
48		井天泉	湧出	農業用水		公園として整備済み。
49		亀が湯泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
50		永末泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
51		平塚泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
52		徳田	井戸	農業用水		改修済みであり確認。
53		上式湯泉	上水道水源		1934改修	鴨ノ木第1水源として改修済み。
54		夫婦北泉	湧出		1724	ポンプ施設有り。
55		夫婦南泉	湧出		1757	一部コンクリートで護岸の補修有り。
56		北の泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
57		横渡泉	井戸	農業用水	1934	ポンプ施設有り。
57		立時泉	湧出	農業用水	自然	湧き出る改修済み。水涵部等は未改修。
58		北の泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
59		（前）松尾泉	湧出			農業用水事業により復元。森林伐採にて整備済み。
松山市		（前）松尾泉	噴出			河川工事により変更。
		横渡泉	湧出	農業用水	1850	ポンプによる汲み上げ式。
		日下泉	湧出	農業用水		親水的な整備済み。
		一徳泉	湧出	農業用水		コンクリートで護岸整備。河川区域内で利用を持つ。
		63水	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
		坂元泉（東住居）	湧出	農業用水	1854	コンクリートで整備済み。隣接地区に湧き有り。
		坂ノ湯泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。隣接地区に公園有り。
		宮前泉	湧出	噴出	1914	宅地造成により変更。
		行徳泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
		海西院泉	湧出	農業用水	1915頃	ポンプ施設有り。
60		内入泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
61		内入泉	上水道水源			バクテリア汚染が確認され改修済み。
72		西ノ入泉	井戸	農業用水		湧き出す状況に不有り。使用可能なり。
73		一本松泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
74		沢池泉	湧出	農業用水	1929	ポンプ施設有り。
75		大陰泉	湧出	農業用水	1929	ポンプ施設有り。
76		反谷泉	井戸	農業用水	1760頃	一部コンクリートで護岸改修有り。
77		新井泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
78		新井手	井戸	農業用水	1937	堤防等の改修により、施設の改修有り。
79		不明	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
80		マブシム泉	湧出	農業用水		樹林（竹林）が多い。
80		大和泉	湧出	農業用水		ポンプ施設有り。
81		蔵元泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。浮き草が大繁殖。
82		龍神泉	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。龍神寺境内に有り。
83		長谷泉（役者湯）	湧出	農業用水		公園内で整備済み。樹林地と草地有り。
84		アカノイヌ	湧出	農業用水		ポンプ施設有り。
85		不明	湧出	農業用水		コンクリートで整備済み。
86		仲太泉	湧出	農業用水		ポンプによる汲み上げ式。
87		新徳泉	湧出	農業用水		ポンプによる汲み上げ式。
88		オセキ泉	湧出	農業用水		樹林地で確認。
89		（前）本泉	湧出	農業用水		樹林地と、盛土により埋没。
90		渡辺泉	井戸	農業用水		ポンプによる汲み上げと併用。
91		東泉	井戸	農業用水		ポンプ施設有り。
92		中野新泉（上管理泉）	湧出	農業用水		樹林地で良好。

[illegible]

**重信川のあゆみ**

- 一六〇〇 足立重信による河川改修  
 足立重信  
 足立重信による河川改修
- 一七〇〇 享保6年 7月 大洪水  
 享保6年  
 7月 大洪水
- 一八〇〇 享保19年 7月 大洪水  
 享保19年  
 7月 大洪水
- 文政8年 9月 洪水 石手川、内川堤防決壊  
 文政8年  
 9月 洪水 石手川、内川堤防決壊
- 明治19年 9月 洪水 石手川堤防決壊  
 明治19年  
 9月 洪水 石手川堤防決壊
- 一九〇〇 愛媛県による上流の山腹工と築堰  
 愛媛県による上流の山腹工と築堰
- 大正8年 7月 洪水 小野村堤防決壊  
 大正8年  
 7月 洪水 小野村堤防決壊
- 大正12年 7月 洪水 小野村堤防決壊  
 大正12年  
 7月 洪水 小野村堤防決壊
- 昭和4年 砂防堰堤や床固工部の施工  
 砂防堰堤や床固工部の施工
- 昭和9年 7月 大洪水  
 昭和9年  
 7月 大洪水
- 昭和18年 7月 大洪水  
 昭和18年  
 7月 大洪水
- 昭和20年 直轄改修着手  
 昭和20年  
 直轄改修着手

 **国土交通省四国地方整備局**  
**松山河川国道事務所**  
〒790-8574 松山市土居田町 797-2  
TEL 089(972)0034 FAX 089(972)8056

# 重信川にまつわるあれこれ

## 07 左馬之助殿堤

松前城南を流れていた重信川により城周  
辺は水害を蒙っており、加藤嘉明は足立重  
信に命じて現在の流路とし、加藤左馬之助  
加藤の名を冠して、左馬之助殿堤と呼ん  
だようである。

## 16 安長堤

元和6(1620)年、承応3(1652)年の  
洪水で石手川の堤防は決壊し、市坪地区は  
水没しました。郷士安長九郎左衛門は私財  
をすべて投げ出し堤防を改修し、その功績  
により堤防は「安長堤」と呼ばれています。

## 27 岩堰と岩堰橋

慶長年間、足立重信は、岩だらけの淵  
を、のみやちで掘削する気のある工事を  
成し遂げ、城下は洪水の被害を受けな  
くなり、また、岩堰付近の赤い橋は、数少  
ない大正期の吊橋で、土木学会の近代土  
木遺産です。

## 14 菖蒲堰

起源は中世期で、樹木で水をせき止める  
「粗渠」といわれ、水が漏れやすい特徴で  
活して、扇状地に等しく分水する工夫を  
していました。近代的水利施設が出来る  
までは、分水権をめぐって度々水論が  
おこりました。

## 23 古照遺跡(松山市考古館)

JR松山駅の西側、松山市南江戸町で  
昭和47(1972)年に発見された。約1600  
年前の古墳時代初期の環状墳です。環は3  
つ発見され、現在、松山市考古館に出土  
品等が展示されています。

## 28 市の井手堰

石手川にある堰の最上流にあたり、井手右  
衛門によって天正7(1579)年に完成した最  
古の堰と考えられています。近郷の人々が、  
その功績をたたえ彼の名にちなんで井手神  
社(須我神社内)を造営したそうです。

## 15 除ケの堰堤

上流の荒廃を防ぐため、県道工事として  
昭和7(1932)年に着工した砂防堰堤です。  
圧迫的な造形美と高度な施工技術で、  
国の文化財、土木学会の近代土木遺産に  
指定されています。

## 25 旧石手川の痕跡と八股堰お池大明神

旧石手川は岩堰から石手寺、持田とあり、  
南堰端(八股堰)箇所を流れていました。  
加藤嘉明が足立重信に命じて現在の石手  
川に付け替わりました。八股堰は嘉明の  
夫人が人達に振り飯を賣したところと言  
われ、お池屋の伝説があります。

## 01 瀧姫神社

松前町と東温市の神座を用いて実施さ  
れるお祭は、「お瀧姫」にちなむ「わた  
り」が参加して行われています。お瀧姫は  
瀧姫神社に祀られています。

## 08 窪田兵右衛門の墓地

明和8(1771)年の大干ばつによる水論で  
は、下麻生村組頭であった窪田兵右衛門が  
村人を救うために自らに引き受けて刑  
死となりました。八倉八蔵寺と八倉公民館  
には、兵右衛門の墓と碑が建てられています。

## 12 雨乞い三面

伊予郡松前町の雨乞い神社に、神社の  
神座を用いた方法があります。浮島神社  
と徳蔵三嶋宮が隔年で保管する慣例と  
なっている三面の飯面は、由緒も古く、市  
の文化財に指定されています。

## 13 別府の石造物群

享保17(1732)年の凶作による飢死者50  
回忌の石碑と座像地蔵尊、文化10(1813)  
年の金毘羅道石柱道標、石積台座常夜灯(年  
代不詳)、昭和18～21(1943～1946)年の  
大水害による死者の供養と復興祈念の地  
蔵尊、東温市の史跡に指定されています。

## 21 義安寺と岬

河野豊四郎義安が建てたとされ、天正  
13(1585)年に河野家が滅亡した時、家  
臣一同が二君に仕えぬ誓いで自決し、そ  
の持たした重信の墓が現れたといわれ、  
その伝説もあり、義安寺や源氏堂とも呼  
ばれ親しまれています。

## 02 義農作兵衛と義農神社

享保の大飢饉の中、義農作兵衛は、麦種  
一粒も食することなく後世に残して亡くな  
りました。尊い彼の死に対し、藩士松平定  
将は、明治14(1881)年には義農神社が  
建立され、また、義農作兵衛の精神は、  
松前小学校児童園により継承されています。

## 20 石手川の松並木と持田太郎兵衛(若宮神社)

明和4(1767)年、防衛強化のための松が  
植えられた。持田の村人が厳しい取調べ  
を受けました。太郎兵衛は罪を被り、寒  
い冬の朝に牢屋の中で亡くなってしま  
い、村人たちは雪をなぐさめようと若宮  
神社に祀ったといわれています。

## 22 石手寺と門三郎再来伝説

四国霊場51番札所。二王門の左右室に  
は、通慶一門の作と伝えられる金剛力士  
の立像が安置され、国宝に指定されて  
います。四国霊道の始まるといわれる「  
門三郎の再来伝説」ゆかりの寺としても  
知られています。

## 04 出合の句碑

石手川と重信川の合流点付近に出合とい  
い、正岡子規は中学時代の友人を訪ね時  
折ここを通ったとされ子規の第1号句碑  
が建てられています。文学のまちらしく水  
原秋桜子の句碑があるなど、川との関わり  
を感じることができます。

## 09 赤坂泉

重信川流域には非常に多くの泉が存在し  
ます。その多くは近世に灌漑用水として  
開発され、人の手が加わることによって  
維持されていきました。そのため泉は松山  
平野の農業・農村生活と切っても切れない  
密接な関係にあり、また重信川に生息す  
る生物やかつて生息していたであろう生  
物も今も生活している貴重な場所でもあ  
ります。

## 10 三ヶ村泉

牛洲・南野田・北野田が三ヶ村井灌用水  
に依存していたのを補うために掘られた  
もので、代官金子文左衛門の裁許で、天  
明元(1781)年から寛政2(1790)年ま  
での10年を費やして掘られたといわれ  
ています。「四国のみずへ八十八カ所」に  
も選ばれています。

## 11 柳原泉

天明7(1770)年、田窪村・牛洲村の灌  
漑用水として開鑿されましたが、寛政  
10(1798)年に泉床を侵襲して現在位置  
に掘りかえられ、その後文政2(1812)年  
の重信川氾濫の際に埋没し、半分を復旧  
するまで10年以上を費やすなど維持管  
理に労力を要した泉です。

## 06 足立重信の墓所(来迎寺)

足立重信は、寛永2(1625)年に病没し、  
城の見える城北・来迎寺の丘に葬られま  
した。大正8(1919)年、正五位が贈られ  
た。大正14(1925)年、松田池に面した地に「  
足立重信公遠功之碑」を建立しました。

## 05 出合の句碑

石手川と重信川の合流点付近に出合とい  
い、正岡子規は中学時代の友人を訪ね時  
折ここを通ったとされ子規の第1号句碑  
が建てられています。文学のまちらしく水  
原秋桜子の句碑があるなど、川との関わり  
を感じることができます。

## 03 松前城址

文禄4(1595)年、加藤嘉明が6万石を  
もって松前城に入りました。嘉明は足立重  
信らに命じて伊予川(現重信川)を改修し、  
慶長8(1603)年に松山城へ移りました。  
当時の松前城は、西側は海を控え他の三面  
は入江の沼地でした。

## 26 松山城

足立重信が普請奉行を務め、慶長7  
(1602)年1月に築城工事を開始。20余年  
の歳月を経て完成しました。松山城は、  
日本で12か所しかない、江戸時代以前に  
建造された天守を有する城郭の一つで、  
松山平野や瀬戸内海などを見渡せます。

## 05 出合の句碑

石手川と重信川の合流点付近に出合とい  
い、正岡子規は中学時代の友人を訪ね時  
折ここを通ったとされ子規の第1号句碑  
が建てられています。文学のまちらしく水  
原秋桜子の句碑があるなど、川との関わり  
を感じることができます。

## 19 おかよ地蔵

二年続きの洪水が起こった享保7(1722)  
年、人柱のため、当時三歳になる女の子  
「おかよ」が犠牲になりました。この翌年、  
石手川の改修工事が始まり、約100年に  
渡り大きな洪水はおこりませんでした。  
「おかよ地蔵」は、その幼い少女を供養す  
るために作られたそうです。

## 29 湧ヶ淵と大蛇伝説

昔から川沿いには温泉が湧き出ていると  
から湧ヶ淵と呼ばれ、美女に化身した大蛇  
が通行人を溺れ誘い命を奪ったという伝  
説があります。周辺は県立自然公園に指定  
され、湧ヶ淵公園などが整備されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞  
堤の開口部からすみやかに川に戻し、被害  
の拡大を防ぐ氾濫戻し効果があります。

## 17 鎌投げ(足立重信)と曲げ出し(大川文蔵)

足立重信が造った石手川新河道は、流路の  
固定を目的とした千鳥掛の波戸(鎌投げ、  
鎌出しと呼ばれる水工)が構築されました。  
しかし、当時治水の根柢をなす治山が不十分  
であったため、土砂の流出が激しく、河川  
はたびたび氾濫し、堤防が決壊しました。  
そこで改修後約100年たった享保8(1723)  
年、西条の浪人・大川文蔵が、両岸から河  
心に直角に突き出した「曲げ出し」を採用  
して、石手川の川幅を減じ、水制を改め、  
川底を深くする改修を行いました。  
足立重信の「鎌投げ」は瀬遊場の下流右岸  
に、大川文蔵の「曲げ出し」は石手川公園  
の中に今でも残されています。

## 06 重信川の霞堤

重信川には、急流河川において昔から用い  
られる霞堤が9箇所あり特徴のひとつとな  
っています。霞堤は、堤防のある区間に開口  
部を設け、その下流側の堤防を堤内側に延  
長させて、開口部の上流の堤防と二重にな  
るようにした不連続な堤防です。戦国時代  
から用いられており、霞堤の区間は堤防が  
折れ重なり、霞がたなびくように見えるよ  
うに呼ばれています。霞堤には、大水が出  
た時に水をわざと溢れさせて堤防の決壊を  
防ぐ遊水効果と、上流で氾濫した水を、霞